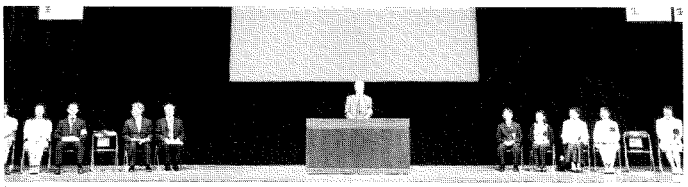
都私幼連だより
2012 9 SEPTEMBER
こどもがまんなか PROJECT
Kindergarten Information Development Society
東京都私立幼稚園連合会
編集発行人　入谷幸二　〒102－0073 東京都千代田区九段北4－2－25 私学会館別館　TEL03（3262）3666・FAX03(3264)6195

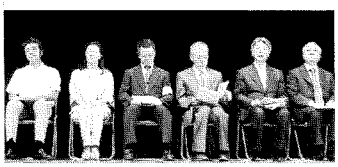
平成24年度「教育研究大会」開催される!!

平成24年7月25日・26日／日本青年館・私学会館

社団法人東京都私立幼稚園教育研修会（入谷幸二理事長）は7月25日・26日の両日、日本青年館（全体会）および私学会館（分科会）において標記大会を開催しました。

この研究大会は全日本私立幼稚園連合会（全日私幼連）の東京地区会の大会として行われたもので、主催一般財団法人私学研修福祉会、協力全日私幼連・財団法人全日私幼幼児教育研究機構・全日私幼連東京地区会、後援公益財団法人東京都私学財団等の私学における幼児教育関係の団体が力を合わせて取り組んで実施しています。30度を超す猛暑の中、全都から1200名余の先生方が参加し、研修に臨みました。









友松副会長



入谷理事長



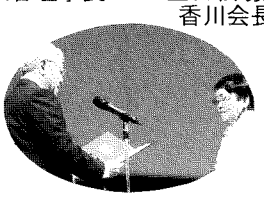
全日私幼連香川会長



榎本私学部長



加藤教研委員長





受付風景



開会式

「二日間ですが熱心に研修され、より良い保育に役立ててください」、友松浩志・教育研究委員会担当副会長の開会の言葉で式典はスタートしました。

はじめに、入谷幸二理事長が「幼児教育は生涯にわたる人格形成を培う重要な教育です。その役割・使命をしっかり果たして頂くために年間を通して様々な研修を企画しています。本大会もその重要な研鑽の場です。実りある研修会になるようしっかり取り組んでください」と挨拶しました。

続いて、全日私幼連・香川　敬会長より「全日本私立幼稚園連合会は8000の幼稚園、11の地区、保護者を合わせれば400万人からなる組織で構成されています。夏の本大会はこの東京地区からスタートし、東海・北陸と実施して参ります。研修は私立幼稚園の要であります。すなわち、先生方には極めて重要な研修の場であります。二日間ではありますが、どうか実りある学びとなるよう頑張ってほしいと思います」と激励の言葉を頂きました。

次に、榎本雅人・東京都生活文化局私学部長から、「政府は認定こども園の充実・拡大の方針を打ち出しました。私も子どもが二人いて今では高校生ですが、私立幼稚園で培った人間関係・友だち関係など、とても役立っているようです。東京の子どもたちの幼稚園での3年間の教育は、先生方の双肩で担っておられます。本大会は教師の資質向上を図り、幼児教育発展のた

め毎年開催されていると聞き、心から敬意を表します。この二日間、幼児教育の専門家である皆様が社会変化を踏まえた幼児教育の在り方について、活発な議論が花咲くことを願い、併せて全日私幼連並びに同東京地区会のご発展をご祈念申し上げます」と祝辞を頂きました。

この後、香川全日私幼連会長より「永年勤続表彰」の授与が行われました。続いて加藤篤彦教育研究委員長から「子どもたちの発達に対応した保育内容を盛り込んで企画したものです」と本大会の趣旨並びに分科会（別掲）についての説明があり、意欲をもって研究討議・実技研修に取り組んでほしい、と述べました。

小憩のあとは記念講演、基調講演等が行われました。

記念講演

「地球上に8000m以上の頂は14座」
～日本人初、14座完全登頂までの軌跡～



講師　竹内 洋岳 先生（プロ登山家）

記念講演では、8000m峰14座すべてを登頂された竹内洋岳さんのお話を、作家の塩野米松さんとの対談という形で聞くことができた。

はじめに、最後に登頂したネパールのダウラギリに登った時の様子を中島ケンタロウさんが写した映像が流され、ネパールの美しい山の風景とともに、8000mという厳しい条件の中で戦う姿を垣間見ることができた。その後、お二人の対談に入ったが、要旨は以下の通り。

8000m級の山々が連なるヒマラヤは、ユーラシア大陸にインドプレートがぶつかって隆起している所。8000mとはジェット機が飛ぶ高さぐらいであり、空気はほとんどなくそのまま出ると人間は10分ぐらいで死んでしまう。そんなところまで人間が行ける理由は、医学的にはまだよく分かっていない。

登るために通常4500～5000mぐらいの所にベースキャンプを作り、そこから高所順化という手続きを経て少しずつ上がっていく。人間にはそのようなことができる潜在能力があるが、通常の生活の中ではそれが引き出されるような状況はない。しかし、トレーニングによってその力を引き出すことができる。潜在能力というものは、ある限界を超えたところで引き出されてくる。子どもたちにも隠れた力があるはずだ。

14座を達成するまでには、脳梗塞を起こしたり雪崩で背骨を折ったりしたが、様々な人に助けられて続けることができた。山で助けられた命だから、山で使っていこうと思っている。楽しいかと聞かれれば、辛いことも悲しいことも起こるが、いろいろな面を考えるとエキサイティングで面白い。

最後のダウラギリでは、一緒に行った中島さんがリタイヤし、最後の所は一人で登った。チームとしては登らないという判断もあったかも知れないが、弱いメンバーに合わせていてはチームは先に進めない。強い方に合わせた中島さんにサポートして頂いたことでチームとして先に進むことができ、登頂することができた。そういう意味で、今回の登頂は中島さんと一緒に達成したものだ。

広報委員・菅原 創（江戸川双葉幼・江戸川区）

基調講演

テーマ「一人ひとりを見つめる」
～エピソード記述の研究方法～



講師　鯨岡 峻 先生（中京大学教授）

100分の講演に17ページの詳細なレジュメを用意され、ご自分のお考えと、「エピソード記述」の実際についてお話しされた。保育の中で「一人ひとりを見つめること」の大事さを改めて学ぶ講演だった。

●主体的には、自分の思いをもって自分らしく生きる「私は私」の心の面と、私はみんなの中の一員、すなわち「私は私たち」の心の面がある。双方のバランスを取りながら心を育てる。

●心とは、子どもの思いを受け止めて、それに応えるかどうかが大きく影響している。

●日々の保育で、集団の達成・成果ばかりに気を取られず、○○ちゃんが少し興味をもったとか、心が動いた…というところに目を向け、個々の心に気付くことが大事ではないか。

●過程を重視して心が前に向かって動いたことを一緒に喜び合える、それを子どもに返してあげる保育が大事。

●子どもたちの心の成長の援助のために、一人ひとりのエピソードを記録しておくことも大切で、「エピソード記述」によることが有効。

これらを踏まえ、続いて「エピソード記述」の具体例となった。

子どもたちの心の動きを、目に見える・見えないにかかわらず、ちょっとしたときでも一緒に感じられる感性を保育者も磨かなければいけないと思った。

広報委員・加藤 壮大（鵜ノ木幼・大田区）

講演

テーマ「みんなちがって みんないい」
～金子みすゞさんのうれしいまなざし～



講師　矢崎 節夫 先生（詩人・金子みすゞ記念館館長）

金子みすゞさんのたくさんの詩を紹介して頂きながら、その「あなたと私」すなわち〝あなた〟がいてくれたから〝私〟の存在がある」という世界観を学んだ。

●自分優先でない、すなわち自分中心で見ていたことを相互の関係があることに気付き、見方を変える。

●うなずいて〝こだま〟にして返したあげる。ちゃんと返してあげられる大人になれるかどうか…。

●言葉には、気持ちを受け止める力がある。「痛い」と言っていたら「痛いね」と〝こだま〟にして返してあげることで気持ちが心に届く。

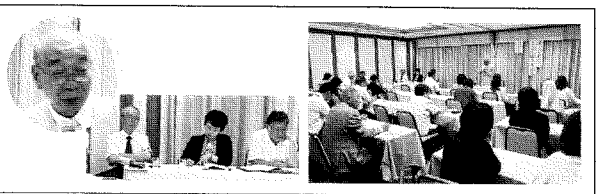
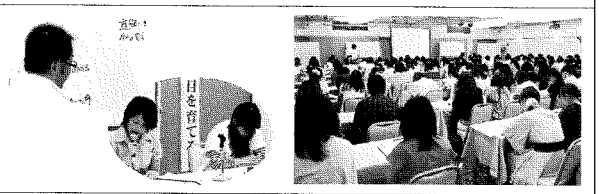
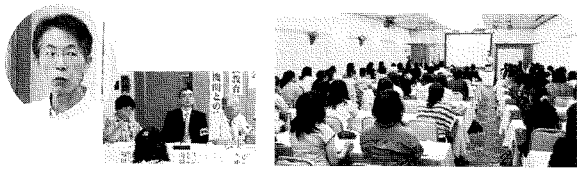
●話した言葉を最初に聞くのは自分。うれしい言葉を言いやすく言えるようにしてあげる。

●すべてが尊く、すべてのみんなが幸せに…、など。

改めて、「こだまでしょうか」「さびしいとき」「こころ」…などの詩を読み返してみると「ハッ！」とさせられることがたくさんあったし、自分は〝こだま〟で返しているだろうか、相手から考えようとしているだろうか、といろいろ考えさせられた。

先生の言うように、「あなたがいて私がいる」という気持ちをみんなが持てるようになるのは理想的社会だ。自分のことを大切にしてくれる周りがいることで、自分も大切に思え、相手も思いやれるのだから。

広報委員・加藤 壮大（鵜ノ木幼・大田区）

①分科会	[分科会主題] こども園を考える	ゲスト 片岡　進　先生 （幼稚園情報センター主宰）	コーディネーター 友松浩志（神田寺） 松村正幸 （鶯谷さくら） 向山陽子（大和郷）	
②分科会	[分科会主題] 子どもをみる目を育てる	ゲスト 岡　健　先生 （大妻女子大学教授）	コーディネーター 関　政子（やはた） 永田陽子 （日本女子大豊明）	
③分科会	[分科会主題] 保護者に伝えたい私の保育	ゲスト 太田光洋先生 （和洋女子大学教授）	コーディネーター 大久保千寿（春光） 町山太郎（まどか）	
④分科会	[分科会主題] 保育環境の意味を問い直す	ゲスト 宮里暁美先生 （お茶の水女子大学附属幼稚園副園長）	コーディネーター 小林愛子（戸山） 首藤万里子 （鵜ノ木） 小堤小夜子 （すずらん）	
⑤分科会	[分科会主題] 幼児理解と子どもの育ち	ゲスト 若月芳浩先生 （玉川大学教授）	コーディネーター 田澤里喜 （東一の江） 平田嘉史 （府中白糸台）	
⑥分科会	[分科会主題] 特別支援教育 ～専門機関との連携～	ゲスト 池田敬史先生 （臨床発達心理士）	コーディネーター 関岡貴之 （多摩みゆき） 福田末子（福田） 久山　淳（青梅）	
⑦分科会	[分科会主題] 保護者と共に育つ保育者 ～研究委員発表～	ゲスト 高橋かほる先生 （聖徳大学准教授）	コーディネーター 田苗孝子 （宝仙学園） 柏木信昭 （聖ドミニコ学園） 義澤隆文 （駿河台大学第一）	
⑧分科会	[分科会主題] 免許更新講習	ゲスト 青木久子先生 （青木幼児教育研究所主宰）	コーディネーター 加藤篤彦 （武蔵野東） 中村　健（なかの） 角田　洋（矢の口）	
⑨分科会	[分科会主題] 音楽で遊ぼう	ゲスト 野村浩恵先生 （療育音楽「星の会」主宰・音楽講師）	コーディネーター 山本秀子（こうま） 菅原久子 （江戸川双葉）	
⑩分科会	[分科会主題] あそびから創造へ	ゲスト 花輪　充先生 （東京家政大学教授）	コーディネーター 坂本直隆 （サムエル） 井上裕美 （しらぎく）	

②新規採用教員研修会　平成24年7月11日／私学会館

テーマ

「保育者の心構え」

～保育者であると同時に社会人として魅力的な人間力を身につけましょう～

［講　師］河村　都　先生（オフィスカワムラ代表）



今回の研修会では、河村　都先生に「保育者の心構え」と題し、お話をして頂きました。以下は、その要約です。

『仕事は何のためにするのか』

仕事は自分の成長のために行うものである。

『笑顔と挨拶』

挨拶だけでなく、笑顔も立派なコミュニケーション。保護者へ向けての笑顔は大切。相手が笑顔でなくてもこちらが先に笑顔を送ること。

『おしゃれと身だしなみの違い』

おしゃれは自分のため。身だしなみは他人のため。身だしなみとして、髪は顔にかからないように髪型にも気を付けること。

『美しい立居振る舞い、言葉遣いを心掛ける』

保育者として、美しい姿勢やお辞儀の仕方、イスの座り方にも気を配ること。正しい敬語や丁寧な表現、場面にあった言葉遣いを身に付けること。

『報酬（給料）を得るということ』

それは「プロ」と認められた証拠。「プロ」という認識と、給料を頂けることへの感謝の気持ちを忘れないこと。

『［意見］と［不平不満］は異なる』

意見には次のステップがあるが、不平不満は何も生み出さない。そこには醜い人間性が出るのみ。

『仕事は［させられる］のではなく［する］もの』

仕事は受け身ではなく、自ら進んで行うもの。それがプロであり、受け身では「不平不満」に繋がる。

『健康維持に留意する』

心身ともに元気でいることが大切。健康に留意することも仕事の一つ。但し、病気になった場合には無理をしないこと。

『［気付く］ことの大切さ』

小さな気付きの積み重ねで、園はもっと良くなる。園長だけの気付きでは良い園にならない。皆さんの気付きが必要である。

最後に先生は、どんな仕事でも最低1年間は頑張ること。そして、幼稚園の先生のように感動できる職業は他にはなく、是非その感動をキャッチできる先生になって欲しいと述べ、会を締め括りました。

広報委員・山崎　貴之

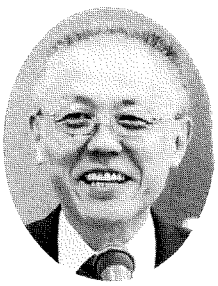
（青鳩幼・葛飾区）

③新規採用教員研修会　平成24年7月18日／私学会館

テーマ

「保育者の心構えⅡ」

［講　師］友松　浩志　先生（神田寺・真理学園園長／東京都私立幼稚園連合会副会長）



第3回新規採用教員研修会は表題において行われ、たくさんの先生方が参加されました。

はじめに、友松先生は幼稚園とは、子どもがおもいっきり成長できる場所であり、集団生活を通して人と人が関わり合う場所であると説明されました。そのため、先生方は、先生であるまえに、人として子どもたちと関わっているとお話されました。そして、ドロシー・ロー・ノルトの「子どもが育つ魔法の言葉」という本の中から「子は親の鏡」の詩とともに、先生方が4月に子どもたちと出会ってからどのように子どもたちと関わってきたのかを振り返りました。「子は親の鏡」の詩の中には、「ほめてあげれば、子どもは、明るい子に育つ」「見つめてあげれば、子どもは、頑張りやになる」など、子どもと関わる時に必要な詞がたくさんあり、一つ一つ読みながら、1学期の保育を改めて振り返っていました。

次に、真理学園幼稚園の一日のビデオを見て、挨拶をすることや保護者と話すことの大切さ、子どもたちの生活に先生がどのように援助するかなどを説明されました。その後先生は、一人一人が自分に責任を持って、一人だけではなく、幼稚園全体が力を合わせて保育をすることが大切だと話されました。

最後に、保育とは毎日成功するものではない。失敗することもある。しかし、1年間を通して考えて、3学期の最後に「先生と一緒に過ごせてよかった」と言われるように頑張ることが大切で、そのためにも夏休みを利用して、1学期の失敗を引きずらないように軌道修正することが重要だと説明されました。

広報委員・村瀬　光大

（浅間幼・江戸川区）

学校法人立協議会講習会　平成24年7月13日／私学会館

テーマ

「監査への対応について」

～過去の幼稚園に対する指摘事項を中心にして～

［講　師］
堀端　昌江　氏
（東京都生活文化局私学部私学行政課学校会計指導係長）
矢中　芳則　氏
（東京都生活文化局私学部私学振興課助成係長）



今回の講習会では、財政援助団体等監査について、監査当日までに準備しておくものの説明から、監査全体の流れ、また過去に指摘された事項などを説明して頂きました。

いくつか留意点を挙げると会計処理関係では、長期休職者等に係る通勤手当の支給状況の確認や給与が支給根拠（給与規定等）と照らし合わせ適切に処理されているか、未収入金などの年度末の会計処理が適切かといった点を挙げられました。

また、補助金関係で留意する点として、経常費補助金の申請内容が事実と相違ないか（基礎数値に誤りがないか、特別補助事業を適正に執行しているか等）に基づいて確認することが監査当日の最重点項目であり、基礎数値となる5月1日現在の「学級数」「本務教職員数」「幼児数」等は特に確認しておくことを挙げられました。そのため5月1日前後の入退園には、特に注意を払い、「本務教職員数」については、本務の用件を満たしているか確認することが大切とのことでした。

監査当日は、原則2名の監査員が午前10時より午後4時30分まで監査を行い、学校概要の説明や施設の視察も行われるとのことです。その際、それぞれの施設の説明や幼稚園で行われる行事の説明なども丁寧に行うようにとのことでした。

講習会を受講して、日頃から適切な会計処理を行うことや、補助金関係書類を整理しておくことの必要性などを改めて感じた講習会でした。

広報委員・村瀬　光大
（浅間幼・江戸川区）

就任ごあいさつ

事務局長　佐藤　信秀



7月16日付で東京都私立幼稚園連合会事務局長に就任しました佐藤と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私にとって幼稚園関係の仕事は全く経験したことのない初めての分野のため、日常用語の理解にも若干戸惑いを感じながら勤務しているところです。

着任早々から、教育研究大会、新規採用教員宿泊研修会、学校法人立園宿泊研修会などの行事に参加させて頂き、関係者の幼児教育にかける強い熱意と旺盛な研鑽意欲には驚いております。

また、事務局スタッフの温かい支えもあり、手探りながらも日々新鮮な気持ちで働かせて頂いております。

私立幼稚園を取り巻く状況は大変厳しいものがありますが、次代を担う幼児教育の重要性を十分認識し、皆さまのご支援を得て連合会の充実発展のために、微力ではありますが努力していく決意です。今後とも、事務局職員一丸となって取り組んで参りますので、よろしくお願い致します。

「学校法人立園宿泊研修会」報告

平成24年8月2日～3日／箱根宮ノ下「武蔵野別館」







学校法人立宿泊研修会、一日目は「これからの制度における学法幼～幼児教育への確信を深めるために～」、講師は北條泰雅先生（みなと幼稚園園長／全日私幼連副会長）、コーディネーターは内野光裕先生（清瀬ゆりかご幼稚園理事長）でした。

「子ども・子育て関連3法案」の資料を基に、北條先生から「これまでの経過」を伺い、日本の幼児教育は平成17年1月の中教審答申、18年の教育基本法の改正で教育体系にきちんと位置付けられたにもかかわらず、平成21年の政権交代後、幼保一体化の制度論のみに終始して、内容が置き去りにされていることが分かりました。今後の見通しについては、幼保連携型認定こども園を経営しておられる先生から、勤務シフト制の問題、パート職員の問題など、たくさんの問題点を提起して頂き、幼稚園、認可保育所、認定こども園など施設ごとでの補助金の違い、保育士・教員の意識の違い、勤務体制の違いなどについて、活発に情報交換が行われました。今後の幼児教育を守り、発展させる義務が私たちにあることを再確認した研修でした。

二日目は、「監査を受けるにあたって～学校法人の管理運営のあり方～」と題し、長谷川達郎先生（コドモの園幼稚園）、坂本直隆先生（サムエル幼稚園）、本橋興彦先生（みずほ幼稚園）が講師をして下さいました。監査を受ける日、AB表や学校情報一覧、補助金関係書類、給与台帳、出勤簿などの必要書類はすべて、監査を行う部屋に監査員から見えるように準備することが大切とのことです。

特に今回の講師で、公認会計士として企業などの監査を実際に行った経験をお持ちの本橋先生が、「監査員として監査対象の施設に入った瞬間に、職場の雰囲気を感じ取りますから、普段の経営・管理をきちんと行うことが最も重要です」とおっしゃったのがとても印象的でした。

広報副委員長・池田　文子
（五ノ神幼・羽村市）

「中堅教諭研修会」報告

平成24年8月6～8日／石和温泉「ホテル春日居」





昨年度は震災後の諸要素を考慮して、期間を圧縮して一泊二日とした研修でしたが、やはり慌ただしいので、今年は研修充実のために、従来の日程にもどして実施しました。参加者は178名にもなり、講師、スタッフを加えると200名近い人数で、今年も8月6日から8日までの研修を開催することができました。会場となった山梨県石和温泉「ホテル春日居」は、清潔感と適当な広さ、また設備がしっかりしているので、参加者も研修に集中できたのではないかと思います。

この研修は、各幼稚園での中心となって活躍をされている先生が、お互いの経験を持ち寄って保育を深めていくことを目的に行っています。3歳・4歳・5歳の各年齢ごとの分科会を中心として、特別支援を考える分科会、そして比較的キャリアの浅い先生のためのフレッシュ講座と五つの分科会で構成をして、各グループ内での討議を中心にして進行をしました。さらにどの分科会も豪華な講師陣をお招きしましたので、その内容を整理して、これからの保育の視点としてのポイントをまとめて頂きました。

研修の初日と最終日には、「幼児教育で大切にしたいこと」というテーマで青山学院大学教授の佐伯　胖先生から、「幼児教育の今日的な課題について」というテーマで山梨大学教授の加藤繁美先生から、中堅教諭にふさわしいレベルの高い内容の講義を頂きました。

また、中堅という立場で園内で期待される役割を果たせるように「コーチングの基礎」についての研修、自分の健康を維持するための体幹を意識する身体のコンディション作りの講習もあり、充実した時間が過ごせたのではないかと思います。

教育研究委員長・加藤　篤彦
（武蔵野東第一・二幼稚園・武蔵野）

平成24年度「第1回養成校交流会」報告

平成24年7月12日／私学会館





入谷会長







小澤経営研究委員長

例年、2月に行われていた大学、短大、専門学校の幼稚園教諭養成校との交流会ですが、今年は7月にも行われました。

2月の交流会は、学生の就職活動や私立幼稚園の求人がほぼ終わった時期に、主にその年を振り返って、学生の動向や幼稚園の採用状況、さらに採用した学生に対して幼稚園側の4月までの研修のあり方、採用後の勤務時間などについて意見交換が行われていました。幼稚園側としては、養成校の求人に対しての要望や学生の動向を伺うことで次年度への課題を見つけ、より良い求人を行うことを目的に考えられていました。

今回のように、7月という学生の就職活動、幼稚園側の求人が始まる前に、幼稚園、養成校、それぞれの担当者が顔を合わせることは、目の前に迫った求人において、より良い人材を求めるための情報交換の場として、また今年の4月から採用した新任教諭の出身校の担当者と話された方は、卒業生がどのように勤務しているかなどを伝える場としても活用されていました。

会のスタイルも、2月の交流会では、あらかじめテーブルごとに養成校側と私立幼稚園側の担当者が決められ、14～15ほどのテーブルに分かれ、意見・情報交換が行われていましたが、今回は、19のテーブルに養成校側の担当者の方々のみ、あらかじめテーブルが決まっていて（座席ではなく立席）、幼稚園側の担当者は、テーブルを回って意見・情報交換・名刺交換などを行うというものでした。

そのため、より多くの養成校側の担当者の方や、希望する養成校の担当者の方と意見交換をすることができるようなスタイルでした。

今回参加した養成校は45校、幼稚園から72園が参加しました。

広報委員・二葉　昭二

（葛飾二葉幼・葛飾区）

園舎のクリーニングはおまかせください!!
Kawai Clean SAT
カワイ　クリーン　サット
弊社は長年にわたり「健康教育」を企業理念として、肝油ドロップを全国の園児の皆さまに、先生方のご理解のもと提供させて頂いております。その経験をいかし、より衛生的で健康的な保育環境を提供するクリーニング事業を手がけております。
先生方の手の届かない場所もおまかせください！
作業内容
○床ワックスがけ　○トイレ洗浄
○エアコン分解洗浄　○厨房
○砂場抗菌処理　○窓ガラス
○カーペット　○その他お掃除全般
※お掃除全般のご相談・お見積は無料です。
プロならではの手際よさと、技術とノウハウを駆使した安全で有効なサービスをぜひ実感してください。
肝油ドロップ　発売元
河合薬業株式会社　Kawai Clean SAT
〒164-0001　東京都中野区中野6－3－5
TEL. 03-3365-1156　FAX. 03-3365-1180

ユニチカ・ニット・東レ
園児服・園帽・体育着
御一報次第カタログ進呈

ピーポッポ印　園服・園帽・トレーニングウェア・カバン製造元
株式会社成増園服研究所
東京都板橋区大山金井町43-1　TEL(03)3957-2176㈹

都私幼連の動き

［7月・8月］
7／3　Ｐ連役員会
7／4　個人立園研修会（青木 久子）
7／5　就職セミナー（東京家政大学）
　　正副会長打合せ会
7／5～6　＊政令指定都市私立幼稚園団体協議会
　　新潟大会（ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟）
7／6　新採研修担当小委員会
7／9　正副会長打合せ会／常任理事会／理事会
7／11　②新規採用教員研修会（河村　都）
7／12　養成校交流会
　　経営研究委員会
7／13　学校法人立協議会監査準備講習会
　　(社)理事会
7／18　③新規採用教員研修会（友松 浩志）
　　認定こども園特別委員会
7／25～26　教育研究大会（免許更新講習含む）
　　（日本青年館／私学会館）
7／30～8／1　①新規採用教員宿泊研修会
　　（水上ホテル聚楽）
8／2～3　学校法人立園宿泊研修会
　　（箱根宮ノ下「武蔵野別館」）
8／6～8　中堅教諭宿泊研修会（石和ホテル春日居）
8／17　④幼稚園教育研究会Ａ（大和郷幼）
8／20～22　②新規採用教員宿泊研修会（水上ホテル聚楽）
8／23～24　※全日幼児教育実践学会(東京家政大学)
8／24　広報委員会
8／28　幼稚園就職フェア（日本青年館）
8／29　認定こども園特別委員会
　　総務委員会
8／30　振興議員連盟役員会（京王プラザホテル）
　　⑤幼稚園教育研究会Ａ
　　振興対策委員会

［今月］
9／4　正副会長打合せ会／常任理事会／理事会
9／5　③教諭研修会（仲田安津子）
9／6　予算要望（都議会）
　　教育研究委員会
9／11　参加型公開保育（やはた幼）（免許更新講習）
9／12　経営研修会
　　個人立運営委員会
9／13　Ｐ連委員研修会
9／21　Ｐ連編集会議
9／25　①園長・主幹研修会（内田 伸子）
9／26　①保育課題研修会(岡　健)(免許更新講習含む)
　　広報委員会
9／27　参加型公開保育(武蔵野東第一・第二幼)
　　（免許更新講習）
　　地区長会

「ふるさとを想う」

日本女子体育大学附属みどり幼稚園(世田谷区)
園　長　　松原　好子

震災から2回目の夏休み、私はやっと生まれ育ったふるさとへ帰省した。私の田舎は福島県いわつき棚倉、小さな城下町だ。ずっと、ふるさとを想う気持ちはあったが、昨年の4月に園長に就任することになり、現場とは全く違う職務、責任の重さに押しつぶされそうな自分、初めてのことばかりで毎日が悪戦苦闘…。自分の生活の変化に心がいっぱいで、ふるさとを想う気持ちがあっても身動き取れないまま…言い訳にしかならないような現実を引きずっていた。

就任して1年が何とか職員たちや保護者の方に支えられて終わり、今年やっと、この夏休みに帰省することができた。

私の母園であり実習園でもあった棚倉幼稚園が全壊してしまったので、少しでも子どもたちのためにお役に立てばと思い、私は地元の町役場へ義援金を持参させて頂いた。子どもたちも先生方も今なお他の町の分園へ分散して、この1年5ヵ月を過ごしている現実だ。帰省したときは母園にトラクターやシャベルカーなどが入り、工事の真っただ中であった。4月に開園が予定されている。

私は棚倉幼稚園で大好きな担任の先生と出会い、この仕事に憧れた。実習生として行ったとき、その大好きだった担任の先生が迎え入れてくれた。あの時の感動が今でも忘れられない。今の私があるのは母園が基盤となっている。

2年ぶりのふるさとはみんな温かい。震災にも負けず、元気に明るく、しっかりと前を向いて頑張っている人たちばかりだった。帰京の前、祖父母と父母が眠る墓前で手を合わせるといろいろな思いが消え、すっきりと心が洗われたように感じた。ふるさとはとても懐かしく、思い出が一気に溢れ出してきた。



編集後記

◆今年の夏休み期間中、先生方には各種の研修会に参加することができたと思います。日頃は多忙な日々を送っている先生方にとっても、いままでの保育を振り返る機会であったり、新しく得た学びを2学期に子どもたちの生活のために活かしてほしいと思います◆8月10日に社会保障・税一体改革関連法案が参議院本会議で可決・成立し、子ども子育て関連法案も成立しました。今後、自園をどのようにしていこうかと考える夏になった園長設置者の先生方やその後継者が多かったのではないでしょうか◆今年の夏は4年に一度のオリンピックがありました。日本は歴代最多のメダルを獲得し、日本中が感動しました。きっと幼稚園児にも感動が伝わったことでしょう◆秋は運動会の季節です。オリンピックに刺激されて元気に張り切る子どもたちがたくさん出てくると思います。あまり勝敗にこだわらないで、楽しく思い出に残る運動会になったらいいなと思っています。（田澤）